

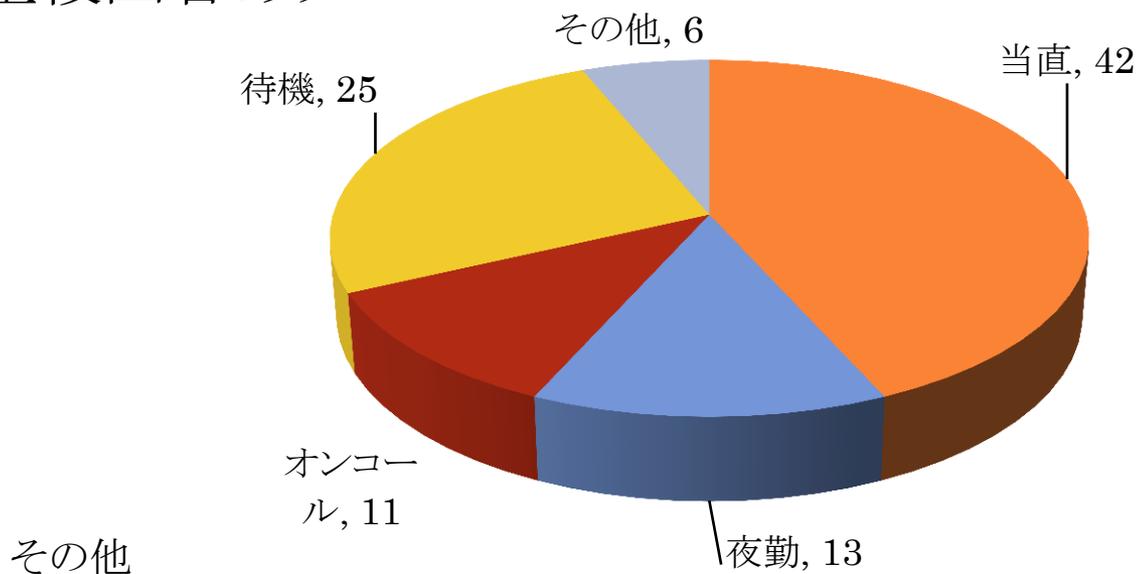
平成29年度 全国病院経営管理学会 診療放射線業務委員会
夜間業務、有給休暇の報告

1

診療放射線業務委員会委員
慈生会 野村病院 放射線科
清水 賢均

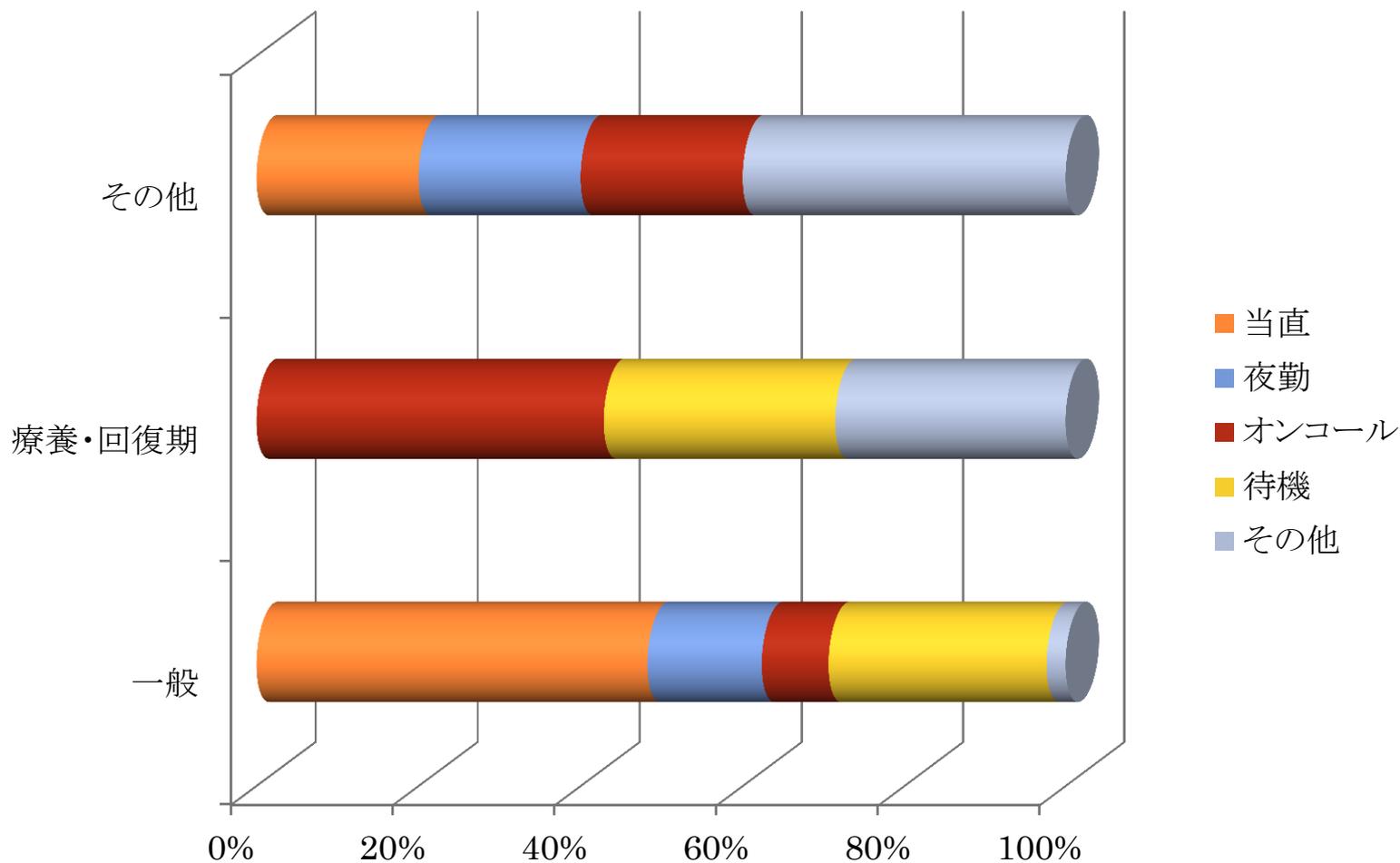
夜間業務 種別

※重複回答あり

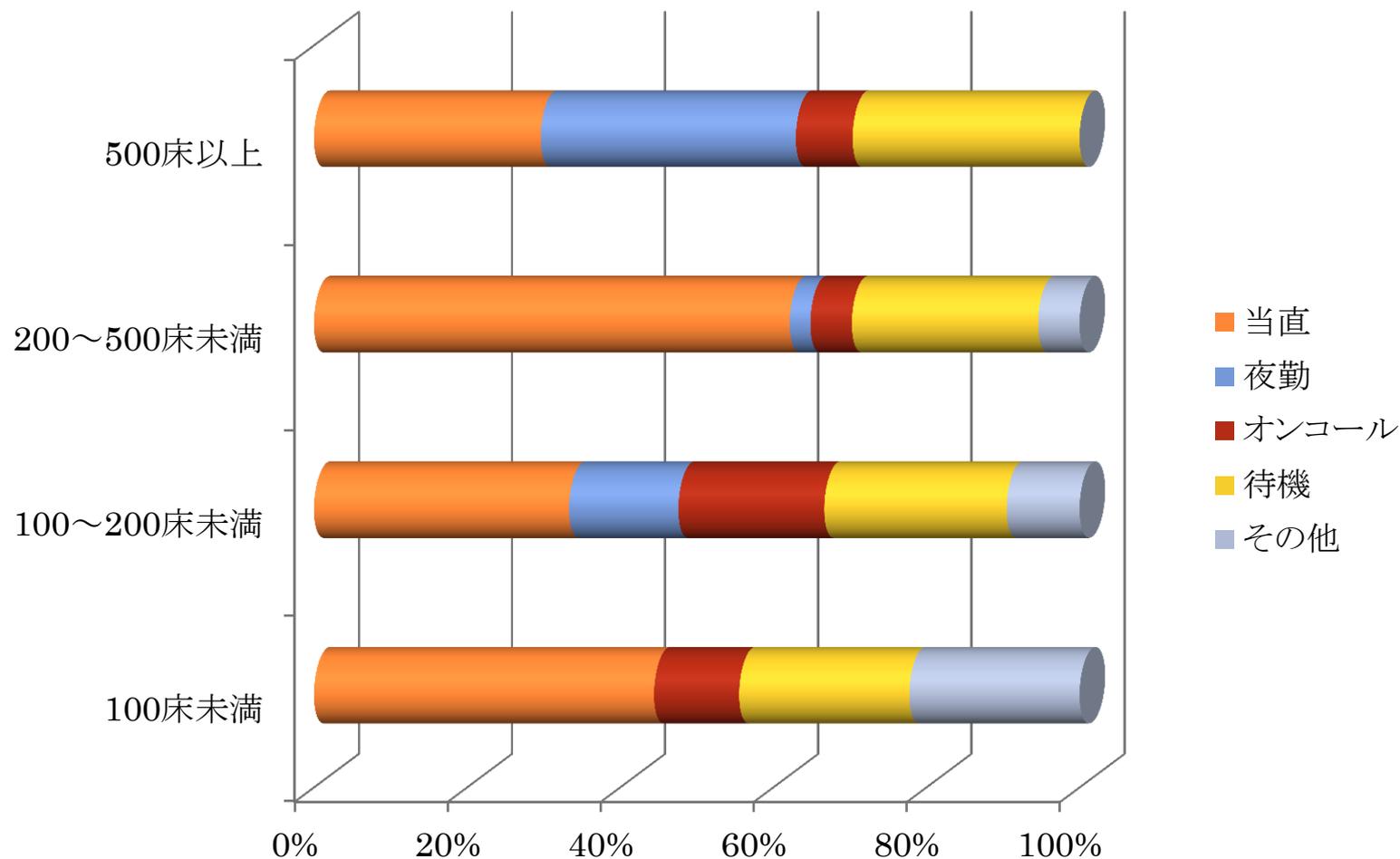


- ・当直、夜勤なし 2件
- ・二次救急当番日は当直、それ以外は待機もしくは呼び出し
- ・平日待機＋土日祝日当直
- ・正式な当直体制ではないが、深夜1時まで院内待機をしている。
結果的にほぼ院内に泊まっている。

業態種別 夜間業務 ※重複回答あり

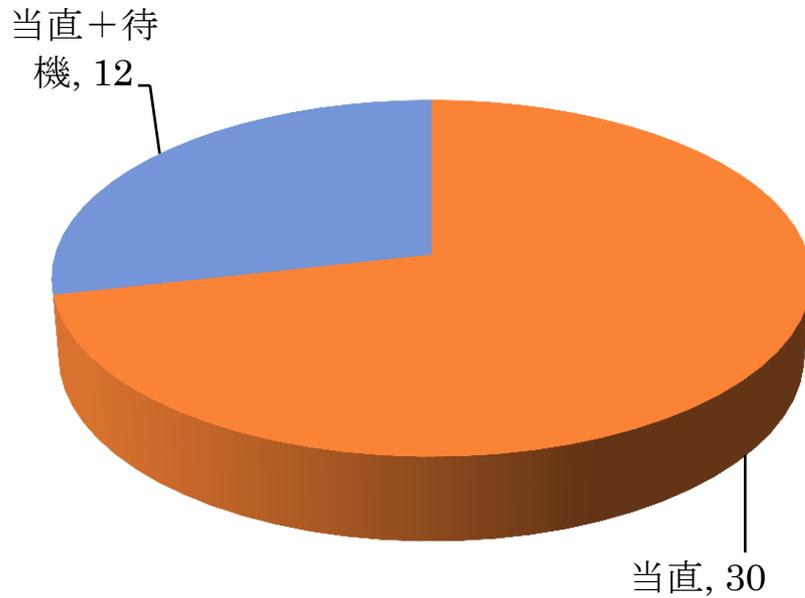


病床数別 夜間業務 ※重複回答あり

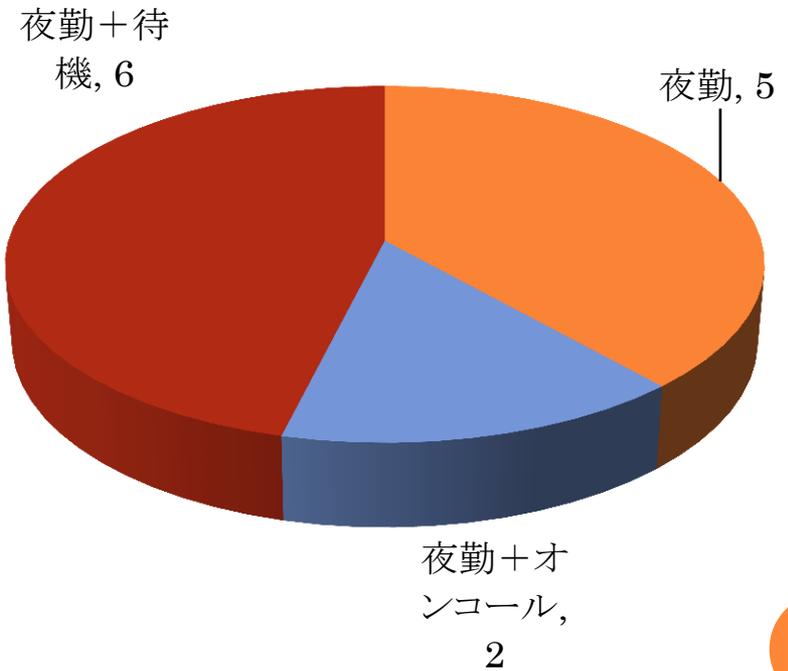


夜間業務 複合

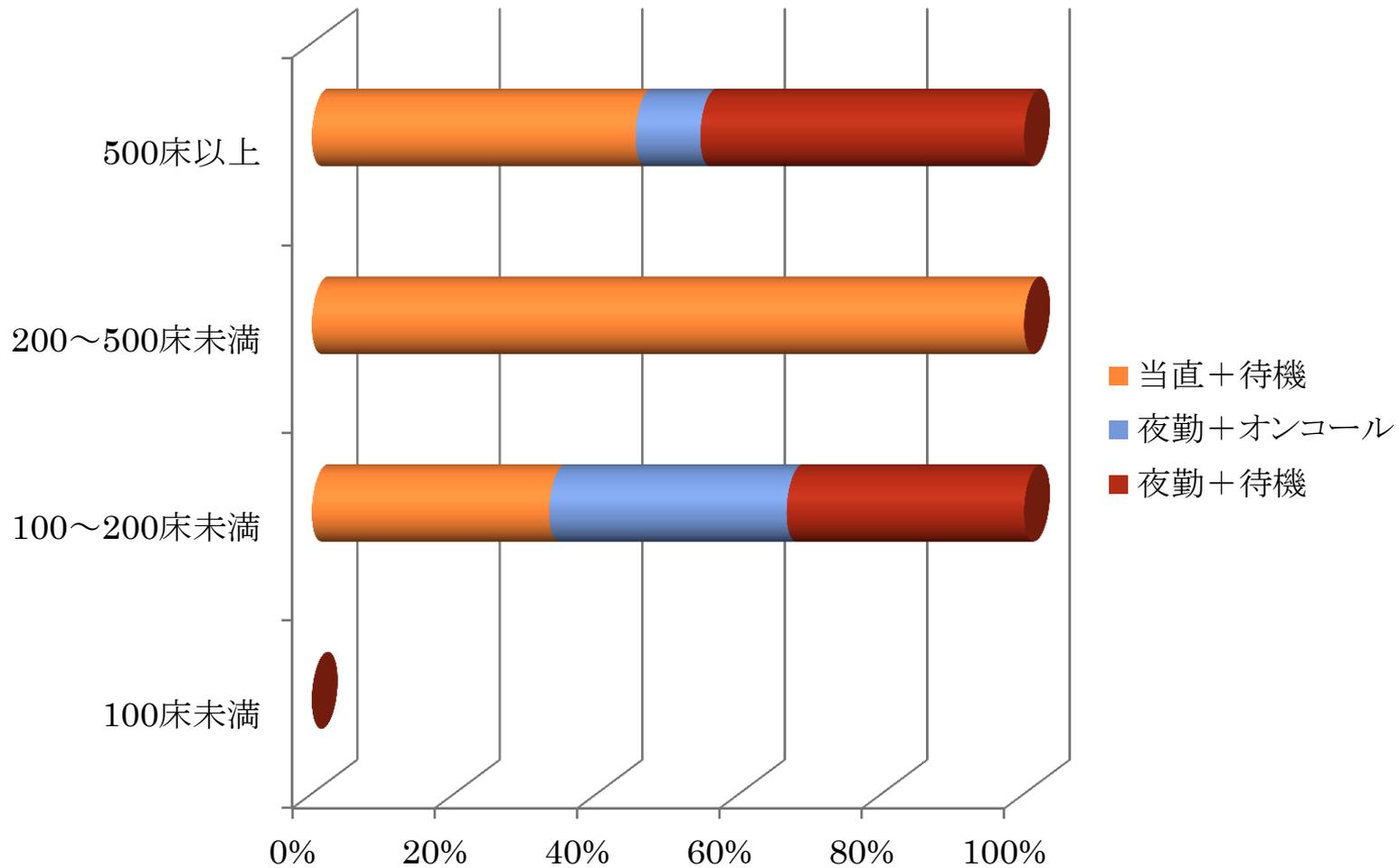
当直+待機



夜勤+オン、待機

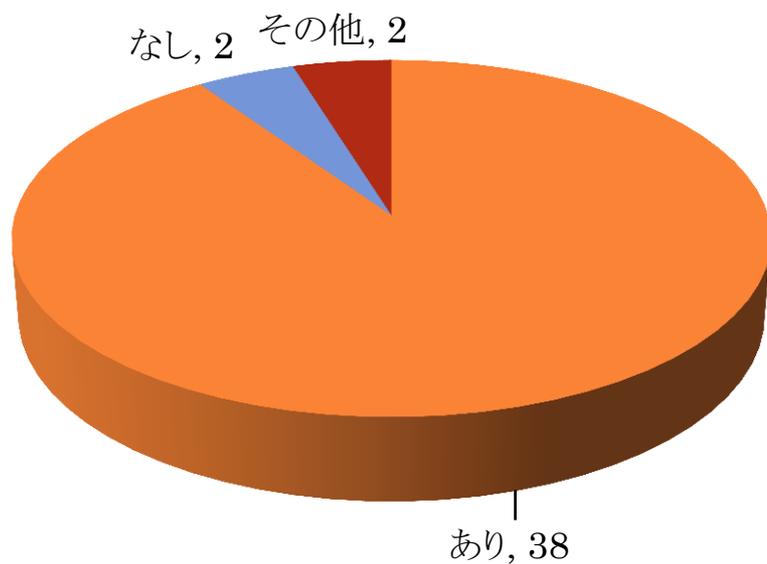


夜間業務複合 病床数別

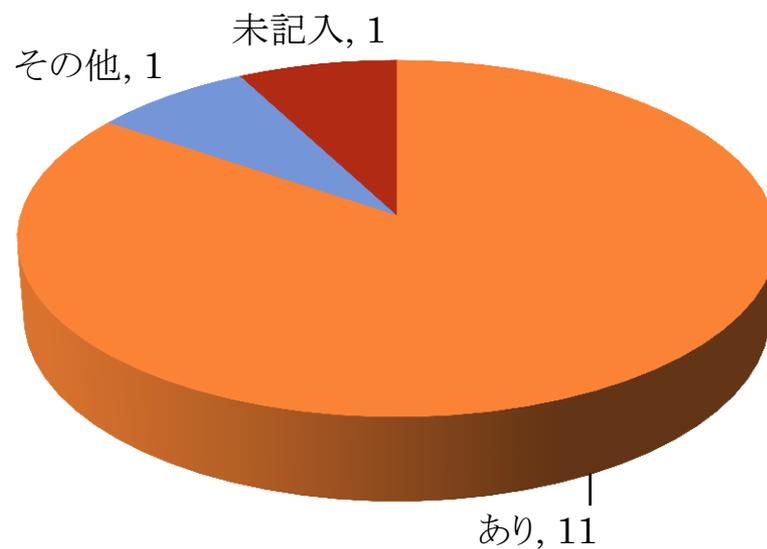


夜間業務明け

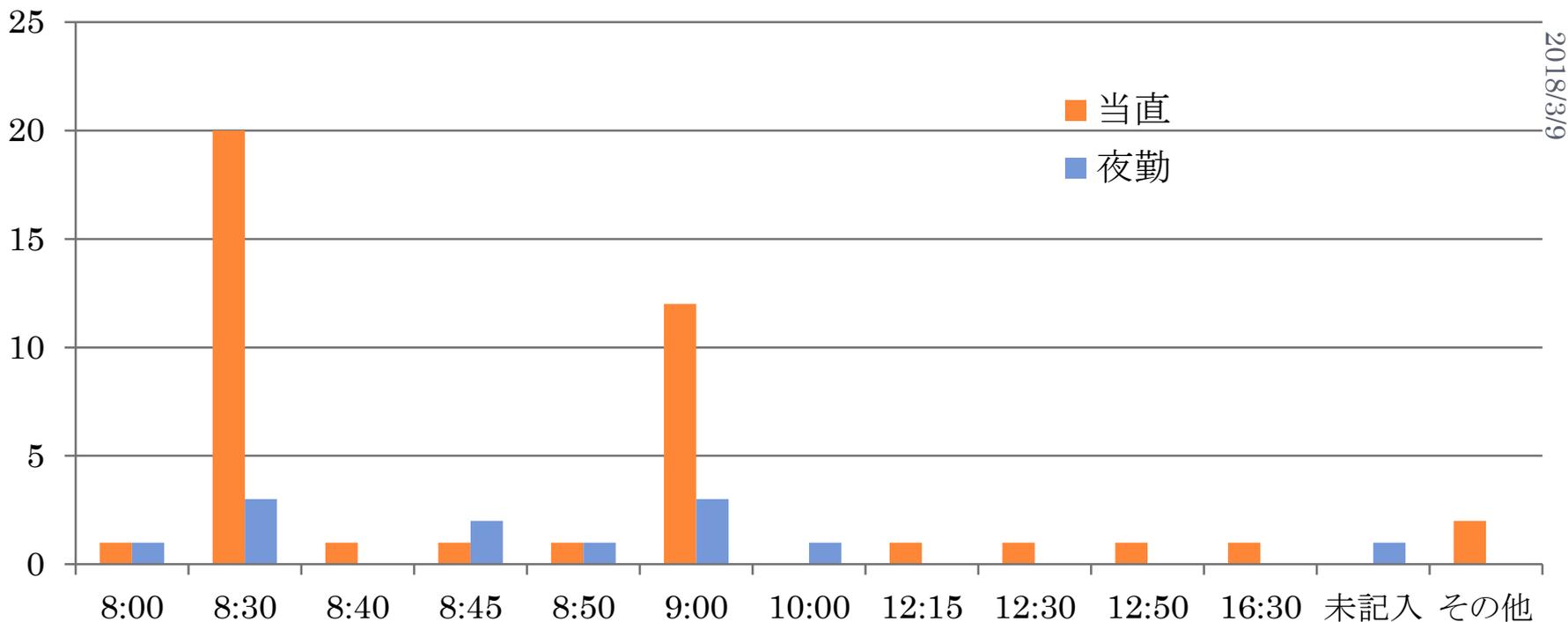
当直42施設中



夜勤13施設中



夜間業務明け時間



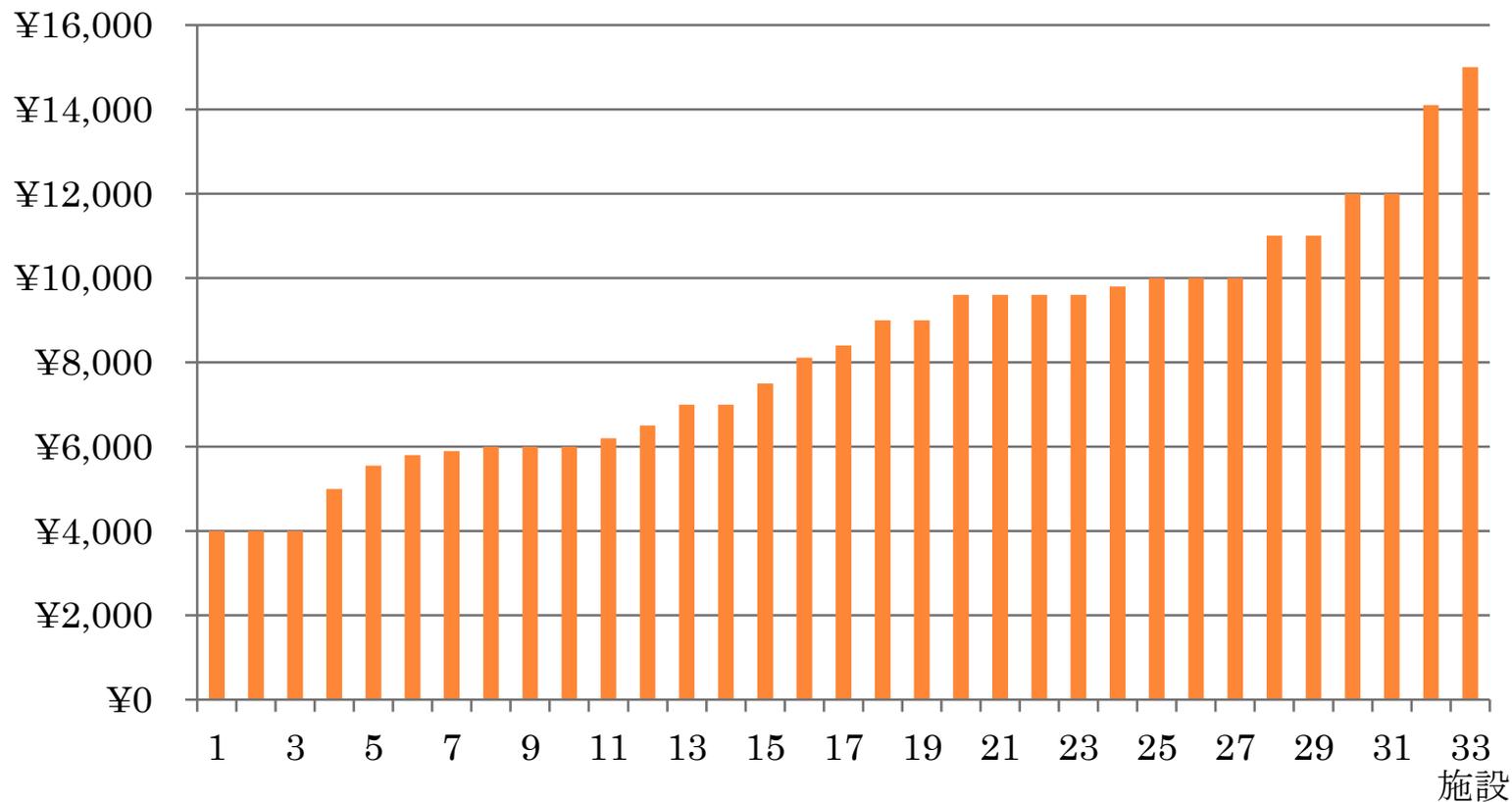
その他

- ・当直明けは翌日の12:15～だが、公有休などを午前中に充てて8:30から明けとしている
- ・平日当直は12時30分～、救急当番日(市内の病院による救急輪番体制あり)の勤務明けは、8時45分

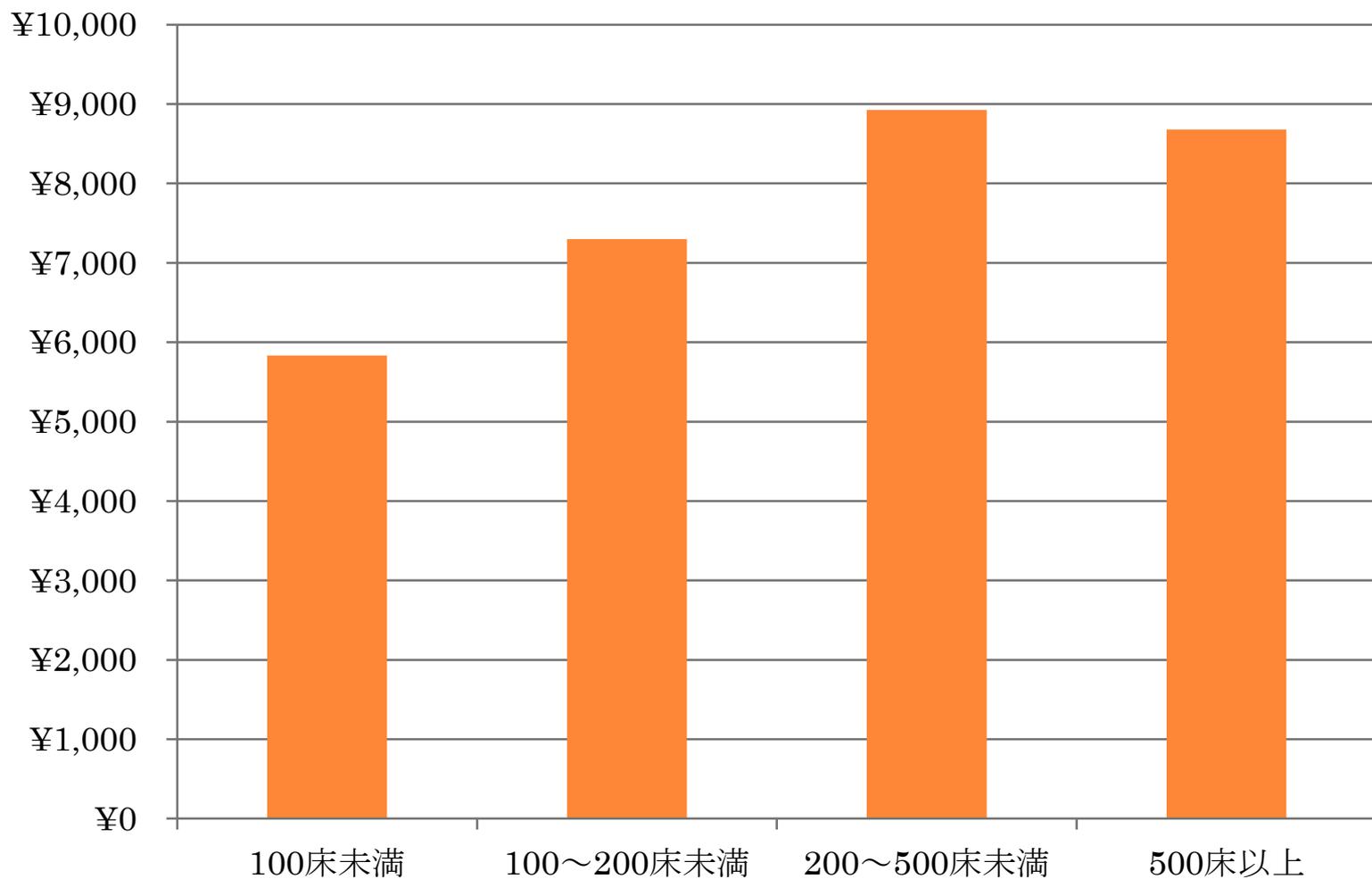
当直手当

当直42施設中 金額記入33施設 平均8,311円

その他9施設 ※その他は計算に含めず



当直手当(平均) 病床数別



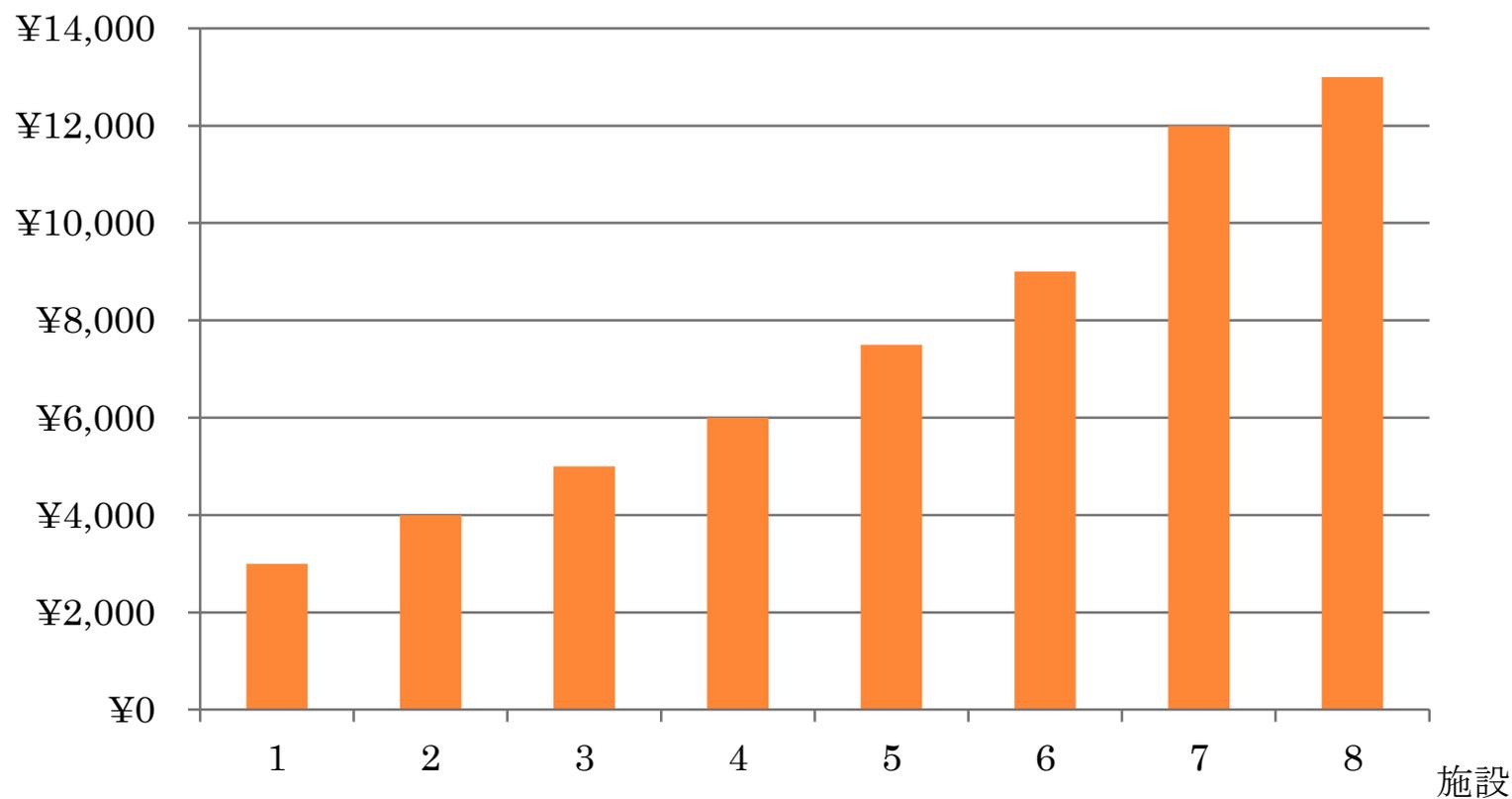
当直手当 その他

- 平日3900円＋実働時間、救急当番日5100円＋実働(ただし上限14000円)
- 平日9600円、土曜10500円、日祭17600円、2次救日はそれぞれ1000円加算
- 役職により手当てが違う
- 月、水9,600円／火、木、土10,500円/日、日曜17,600/日
- 当直手当+3時間時間給
- 3500円＋実労働時間給
- 基本手当約8700円／回(経験年数によって微増)に加え実労働から既定の2時間を引いた時間で超勤手当
- 時間外手当のみ

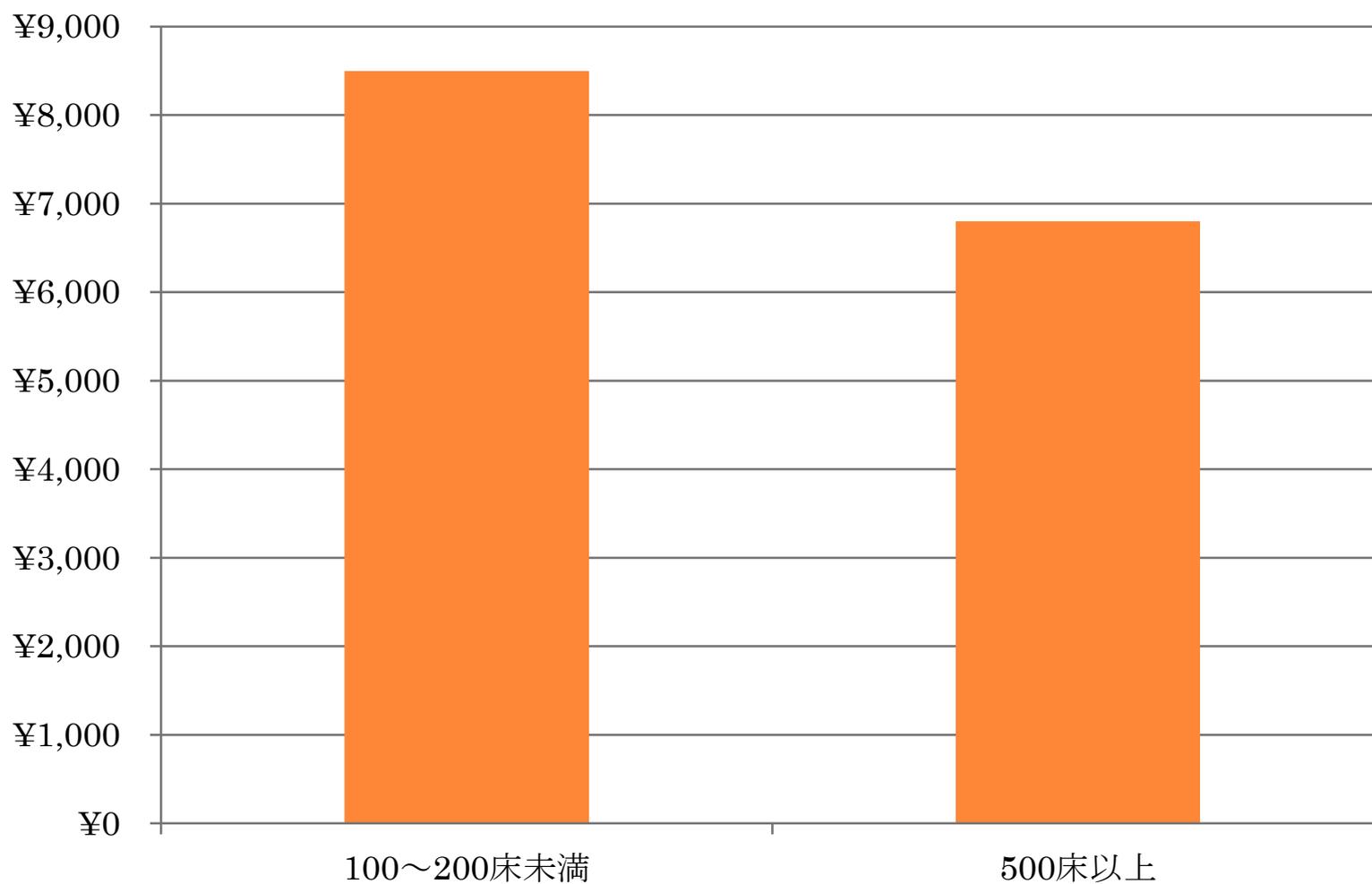
夜勤手当

当直13施設中 金額記入8施設 平均7,438円

その他3施設 未記入2施設 ※その他、未記入は計算に含めず



夜勤手当(平均) 病床数別



夜勤手当 その他

- 4600円+時間給25%×深夜時間
- 職層により異なるが時間外手当に加え加算あり、3～6千円程度？
- 時間外手当のみ22:00～5:00 $25/100 \times 7$
時間外手当プラス1勤務4000円、1値夜勤2勤務(準夜、深夜)のため8000円

オンコール、待機及び呼び出し手当

- オンコール体制のみの施設 8施設中
金額記入1施設
⇒ オンコール1回呼び出し2000円＋時間給(30分単位)
- 待機及び呼び出しのみの施設 7施設中
金額記入1施設
⇒ 1,000円/日＋呼び出し毎1,000円

課題 当直まとめ

- ・夜間検査の技術的レベル低下の懸念 1件
- ・複数検査への対応 2件
- ・夜間検査時の呼び出しの偏在 2件
- ・当直業務が可能な人員不足 5件
- ・当直時の仮眠場所の問題 1件
- ・当直体制から夜勤体制への変更検討 2件
- ・長期拘束による心身的負担の懸念 3件
 - 当直、呼び出し待機による拘束
 - ・
 - ・

課題 夜勤

- 夜勤の入りと明けがあるため、日勤者が少なくなること。
- 夜勤入り、明けに加え、休日の日勤夜勤に対する振休もあり、日当たりの不在者も少なくない。担当ローテーションや部門配置などに苦慮している。
- 日勤と同じ撮影内容を求められるため教育が進まない。(MRI,CT、カテなど)通常夜勤の体制だけでは対応できないため宅直者を配置している
- 日勤(8:30～17:30) → 休憩(1時間) → 夜勤(18:30～翌8:30)にて行っているが、夜勤帯の業務が繁忙である事が多く仮眠を含めた休憩時間が平均で3時間しか取れていない。
- 夜勤業務が多忙になってきており、夜勤の人数を増員したくても、技師全対数が足りていない。適正な人員数があれば知りたい(現状は夜勤1名)
- 当直医や当日の状況で業務(労働時間)に大幅な偏りが生じる。

課題 呼び出し・待機

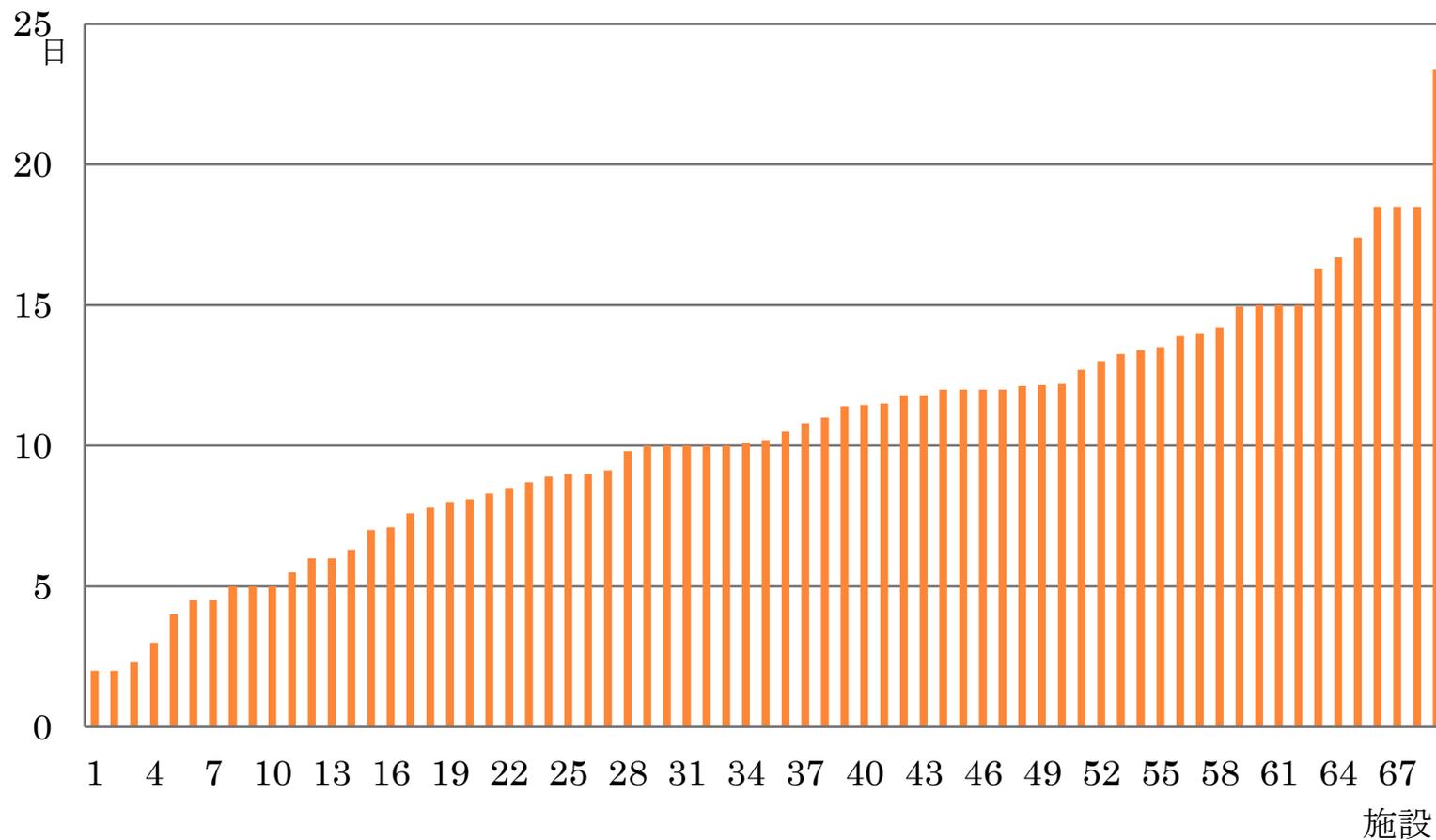
- ・現在、女性技師2名は家庭で小児を養育中である事から基本的には当番には組み込んでおらず、その為、男性4名で月の当番を割り振らなければならず、少々、負担が多いと思います。できれば、6名全員で均等に割り振れる位の数が妥当であると思います。
- ・待機・呼び出し制から当直制に移行する基準・課題等をご教授頂きたい

課題 オンコール

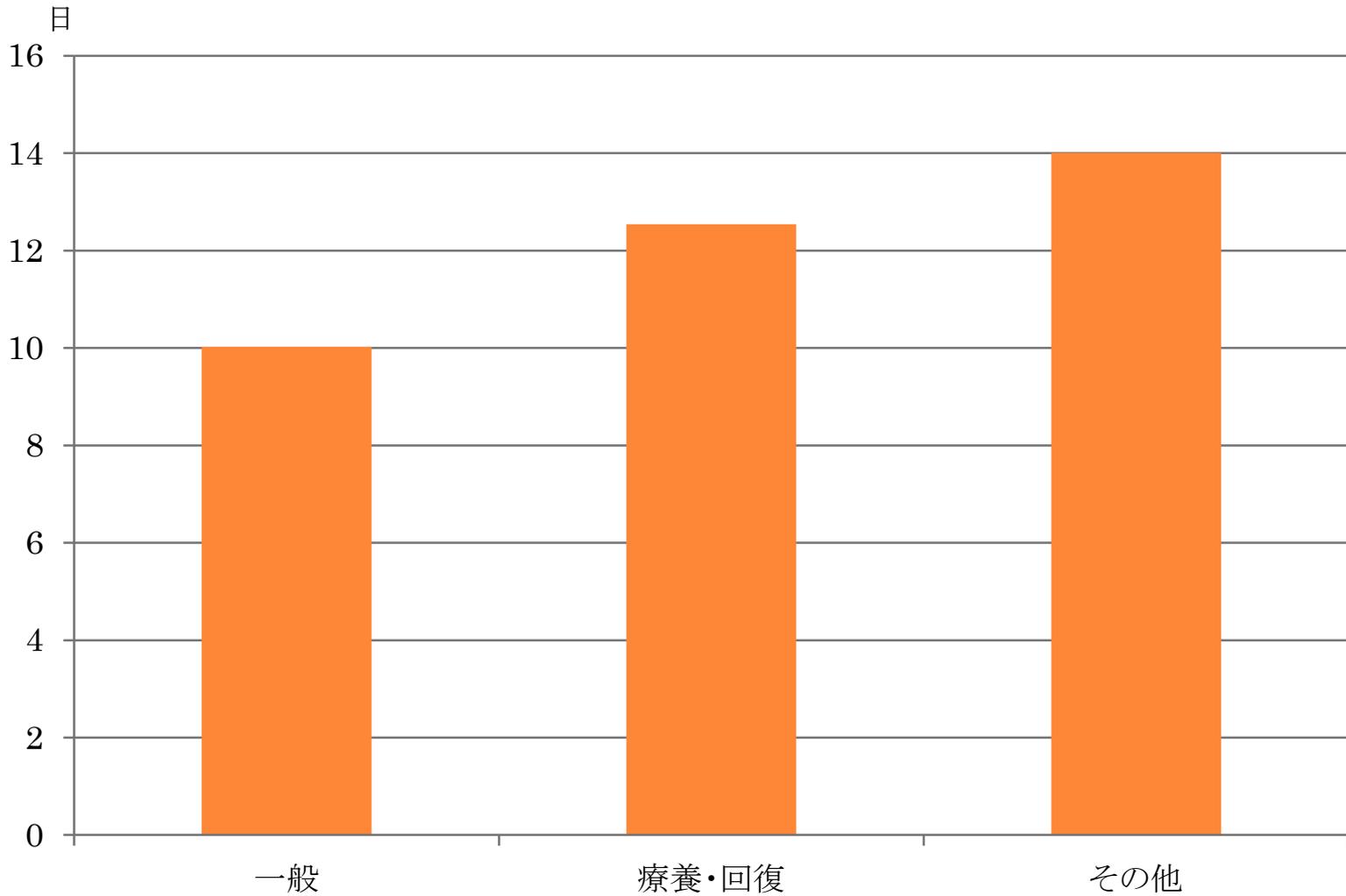
- 放射線科の定員が4名と少なく、週末に多く呼び出されると休みが削られて負担になる。勤務時間以外は呼び出し対応となるため、常に待機しているような状況となっているが、それにたいしての手当がない。交渉しても却下されてしまい手当を付ける予定はない。
- 待機をやめたいが、結局、必要があったらコールされて呼び出しという状態は変わらないと思うと、やはりやめられない。

有給休暇取得日数 年間

78施設中70施設回答 平均10.4日/年/人

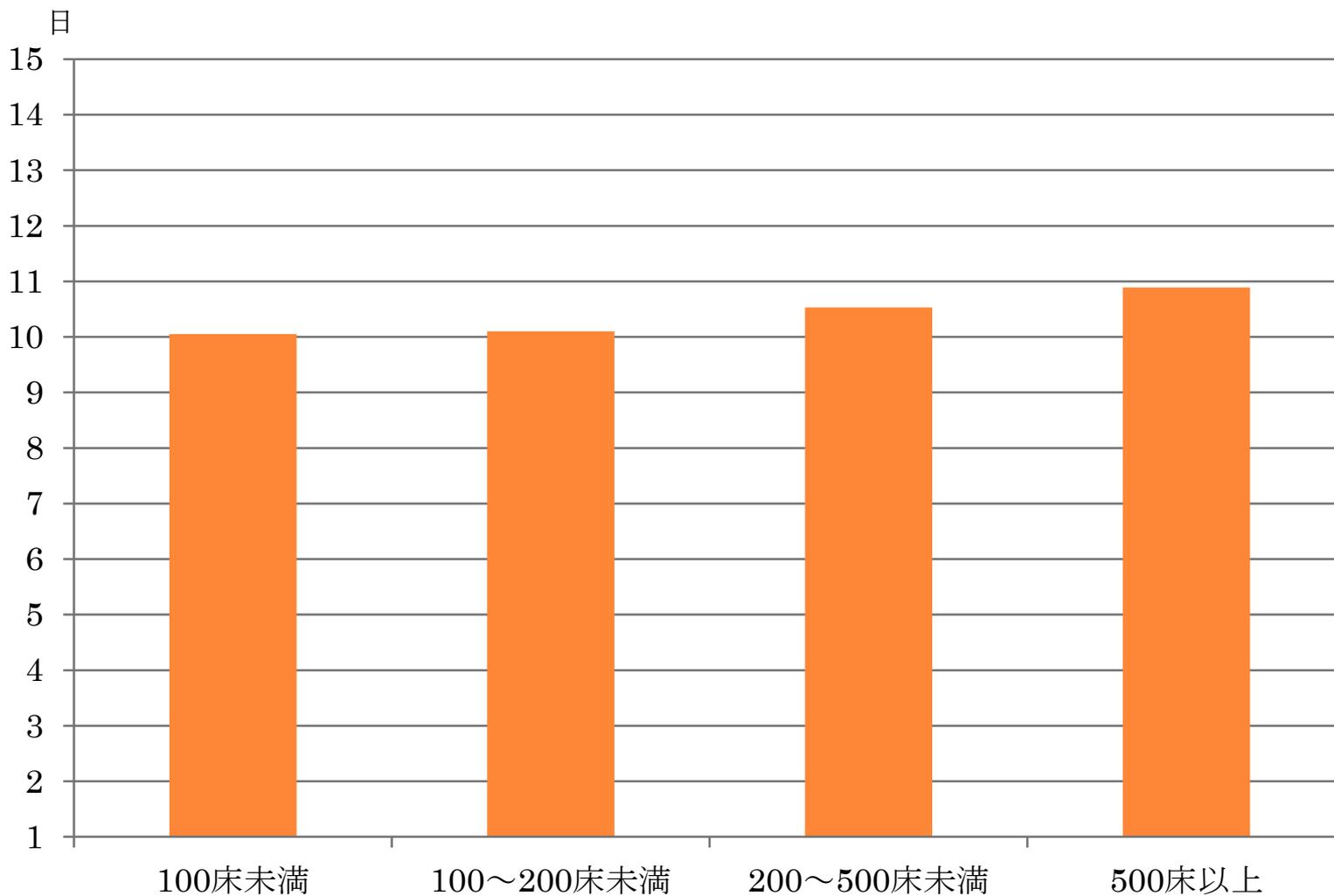


有給休暇取得日数(平均) 年間 業務種別

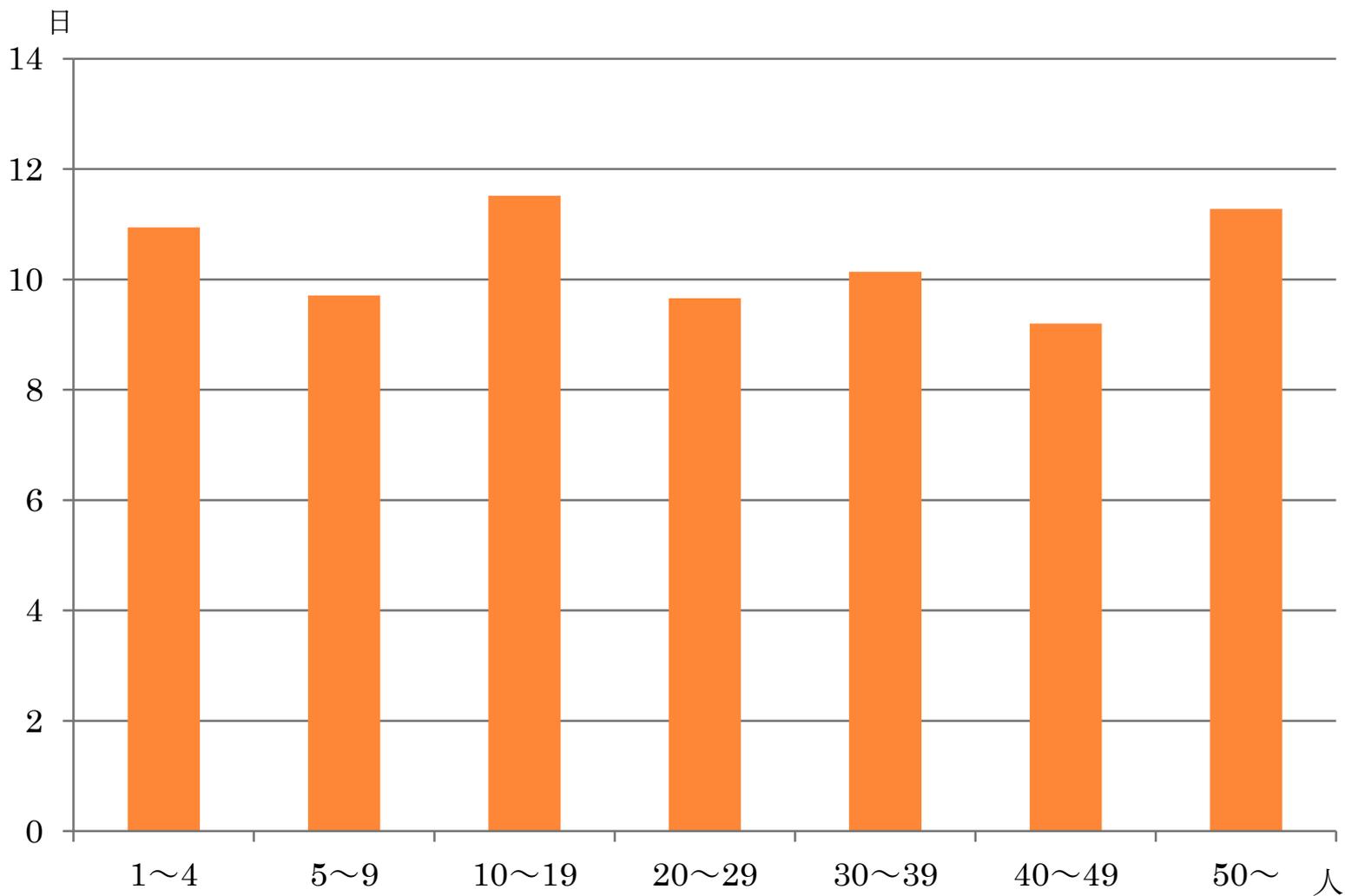


2018/3/9

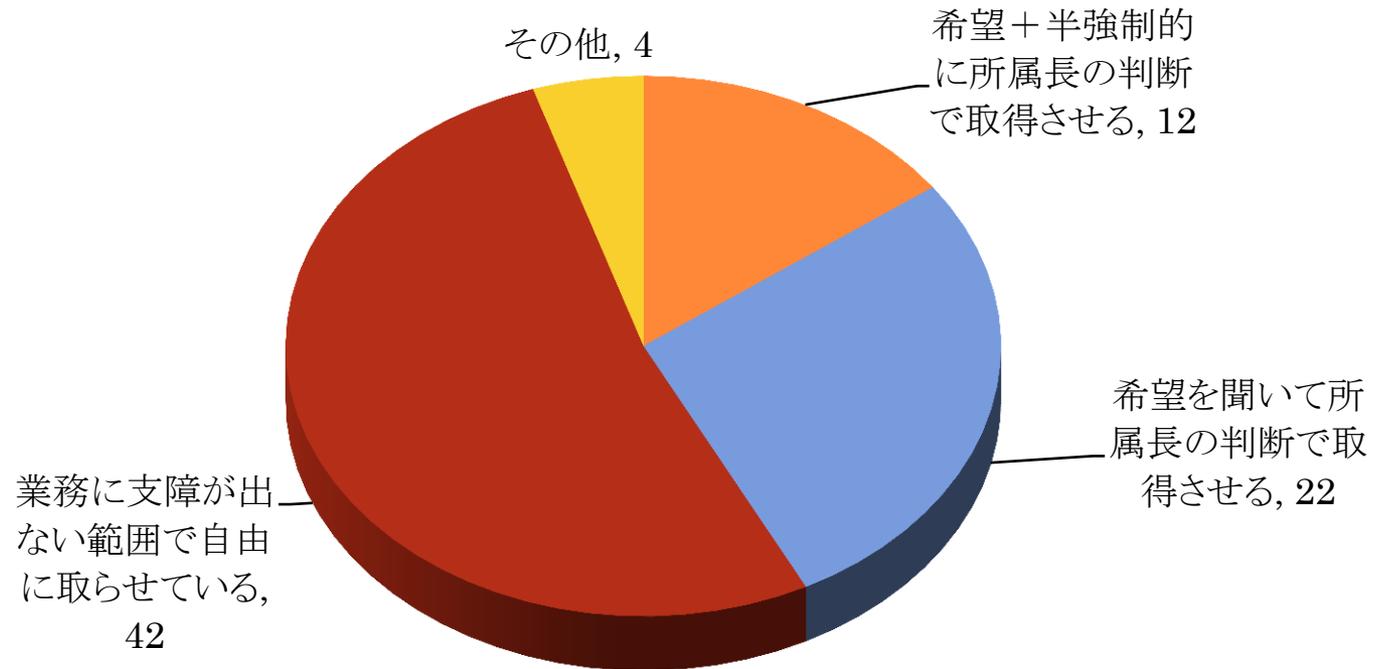
有給休暇取得日数(平均) 年間 病床数別



有給休暇取得日数(平均) 年間 技師数別



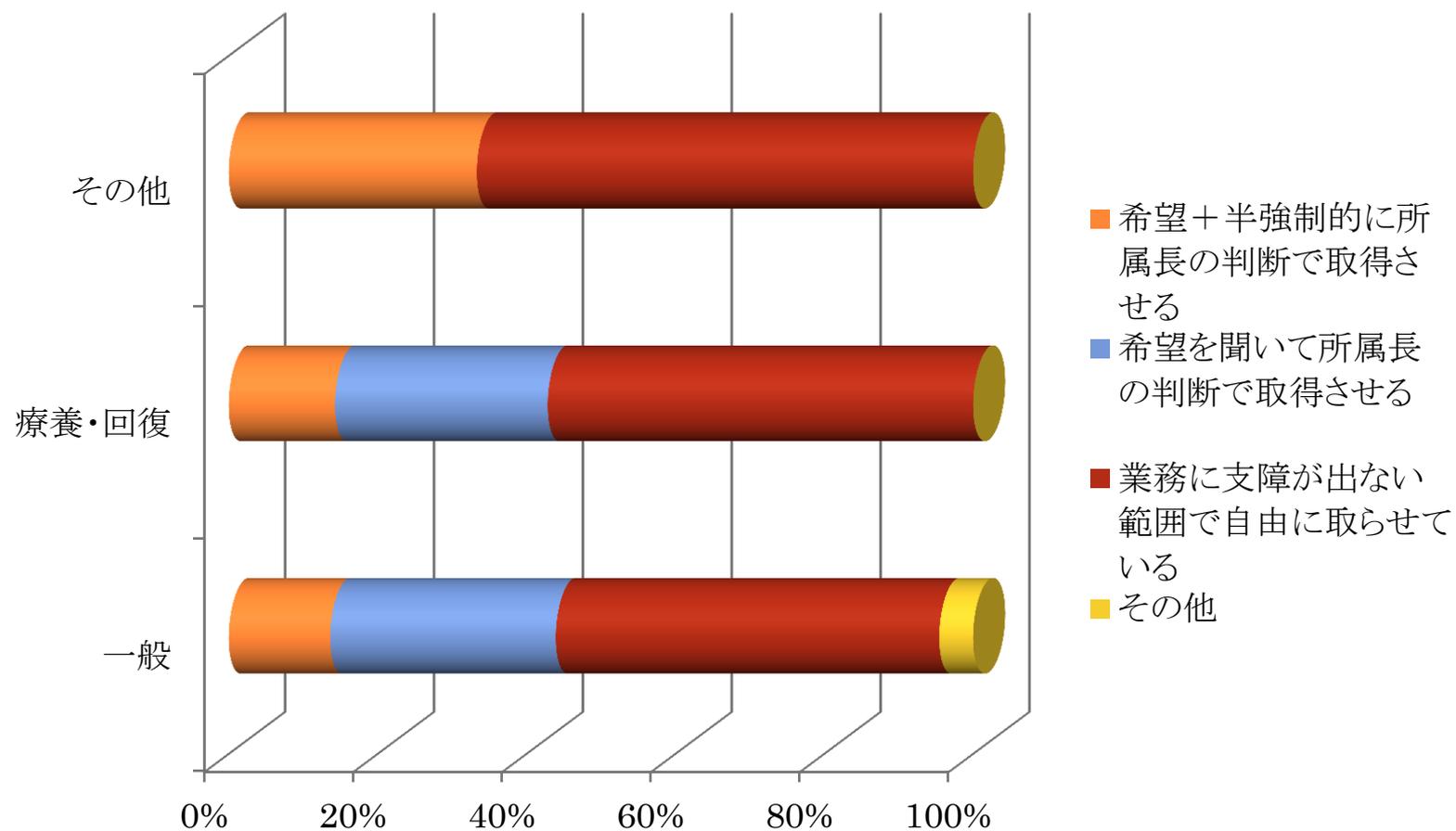
有給休暇取得の具体的な方法 ※重複回答あり



その他

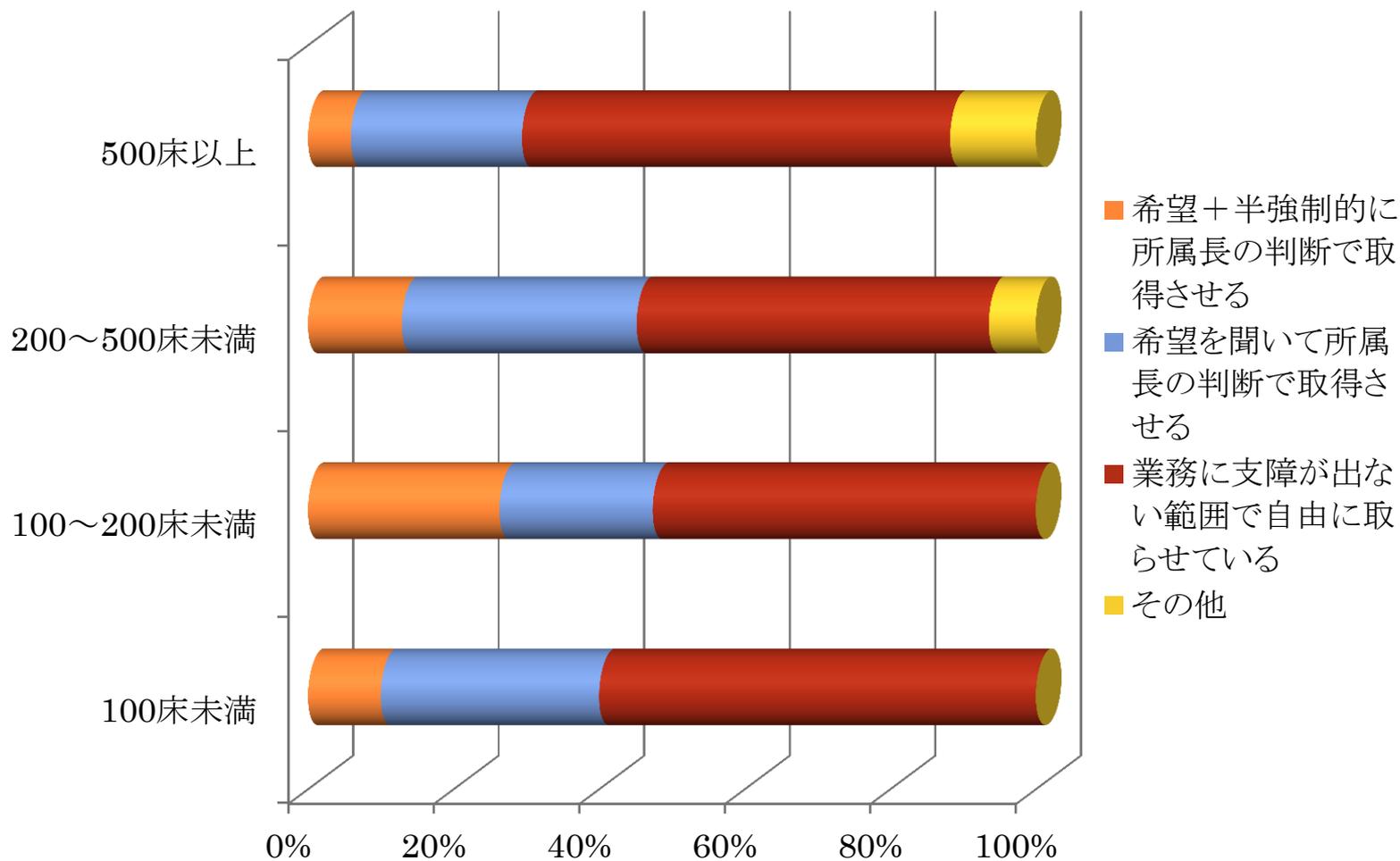
- ・夏期連続休暇は予定表を公開し、1名/日で許可し、取得順はくじ引き
- ・希望の休みを代休、有休に振り分ける
- ・年度初めに希望制にて50%有休取得のための計画をたてる。

有給休暇取得の具体的な方法 業態種別

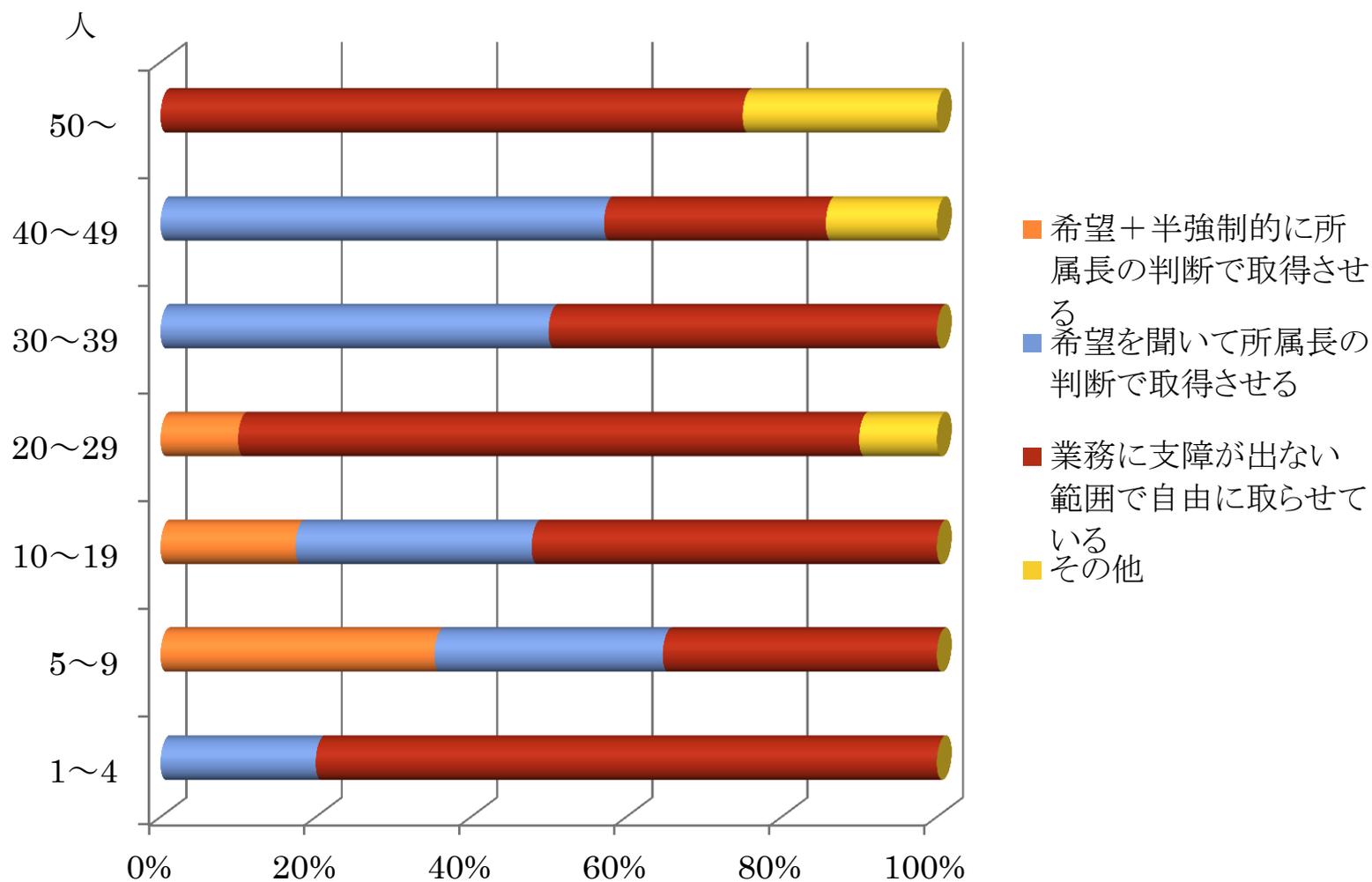


有給休暇取得の具体的な方法 病床数別

2018/3/9



有給休暇取得の具体的な方法 技師数別



有給休暇取得の工夫

- ・半有休(0.5日有休) 23施設
- ・時間有休(1時間単位の有休) 7施設
- ・当直明け 4施設
- ・非常勤技師を手配するため、取得前月10日までに申請
- ・リフレッシュ休暇としてまとめて取得させている
- ・組合があるので予め年間休日を登録する。行使できないとfollowが入る。
- ・誕生日休暇を設置。夜間の緊急呼び出し等では、時間有休で早上がり制度設定。連休の中日の当直明け者は、後日、有給休暇を優先的に取得させる制度を設定。

有給休暇取得の課題まとめ

- ・リフレッシュ休暇制度はあるが業務に支障が出ないように取得するには無理がある。
- ・法律上、有給休暇の希望をどこまで尊重すれば良いか？
- ・有給休暇取得に関して、法令上してはいけない対応について
- ・有給消化率を上げるために強制的に取得させたほうが良いか
- ・取得者に偏りがあり、安易に取得推進が図れない
- ・有給休暇取得に関する人員の適正について 2件
 - 1) 急なお休みの可能な余裕のある勤務態勢にするか、ぎりぎりの人数まで有休をとってもらって、急な休みはムリというか態勢が良いのか？
 - 2) 病院や診療所(クリニック)等の医療施設の施設規模や条件に対し、配置すべ診療放射線技師の数が不明確

考察

①夜間業務について当直体制の施設で約40%、夜勤体制の施設では約60%がオンコール又は待機の応援体制としていた。業務量の増加、複数検査また検査の専門化への対応処置としているが、待機者の偏在による負担増が課題となっていた。

夜間業務量を把握し、適切な夜間業務(当直か夜勤か)、また、人材の育成と配置などを考慮した取り組みが必要と考えられた。

②有給休暇については半数以上の施設で“業務に支障が出ない範囲で自由に取得”させていた。また1時間単位での取得も可能としている施設も複数あった。このような取り組み以前にそもそも人員数が少ない状況でそれどころでは無いとの回答も数施設存在していた。各施設の取り組みを参考に自施設にあった有給休暇取得を構築、提案していくことが重要と思われた。